

事務事業評価シート 平成 28 年度事後評価・決算

平成 30 年 2 月 22 日時点

事務事業名		コード	22800	水田農業構造改革推進事業	予算科目	会計	款	項	目	振興班
基本施策		1		農水産業の振興	根拠法令	旭市補助金等交付規則	6	1	3	☒ 主な事業
施策の展開		2		安定した農業経営の推進	戦略事業	13				☐ 国土強靱化地域計画
施策の展開					戦略事業					☐ 新市建設計画
										☐ 定住自立圏構想
										☒ 主要事業

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	国の施策として米の需給調整が進められている。 米の消費量が減少する中、需要に即した米作りを進めるため、水田での飼料用米、ホールクroppサイレージなどの飼料作物や米粉用米、景観形成作物などを作付けした農家に対し、助成する。
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化
国が進める需給調整を推進するために、転作物物に対し助成する。 また、販売価格が生産費を下回る赤字状態が続いている稲作経営の維持・安定を図るため。	平成22年度から国の需給調整の推進が、ペナルティーを課す施策からメリット措置としての誘導に変わった。(農業者戸別所得補償制度の導入) 飼料用米・米粉用米の取り組みに対する助成が新たに加わり、所得補償制度加入者も増加した。
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
飼料用米受入側の畜産農家からは毎年のように国の制度が変わり、受け入れの設備投資に踏み切れないので、法制化をして継続的な取り組みとなるようにしてほしいとの要望がある。 耕種農家からは制度が難しく解りづらいという意見が出ている。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(28年度の決算)		単位	千円
1. 負担金補助及び交付金	71,917	転作物物推進事業	
② 特定財源の内訳(28年度の決算)		単位	千円
1. 国庫支出金	0		
2. 都道府県支出金	10,101	水田自給力構造改革推進事業	
3. 地方債	0		
4. その他	0		

事業費	費目内訳	単位	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(予算)
事業費計 (A)	1. 負担金補助及び交付金	千円	33,637	43,646	60,913	71,917	88,755
	2. 国庫支出金	千円					
	3. 都道府県支出金	千円					
	4. 地方債	千円					
	5. 一般財源	千円	30,840	40,025	54,204	61,816	76,840

前年度増減理由	転作実施面積の増加
---------	-----------

従事職員数	常時	2人	最大	5人	×	10日	=	延べ	50人
-------	----	----	----	----	---	-----	---	----	-----

(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	28年度実績(28年度に行った主な活動) 経営所得安定対策関係書類作成 補助金交付事務 飼料用米流通関係		ア 補助金対象者数	件	175	139	185	212	200
			イ						

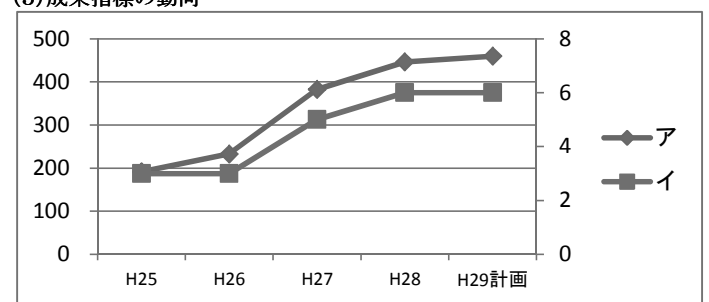
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	④ 成果指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	対象意図 水稻農家 需要に即した水稻作付け 対象意図 飼料用米等作付農家 稲作の低コスト・省力化		ア 転作物物作付面積(WCS・飼料用米)	ha	191.3	232.9	382.8	446.4	460.0
			イ 団地化を実施している生産者及び生産団体	件	3	3	5	6	6

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		成果向上余地		
施策貢献度	大きい	かなりある	ある程度ある	ほとんどない
	普通			
	小さい			

② コスト削減優先度評価結果		コスト比率		
評価結果	①	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
	②			
	③			(9)
	④⑤			
	⑥			
	⑦⑧			
	⑨			

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況		☐ 完了 ☒ 順調 ☐ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難												
	【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)														
	② 成果の状況		成果指標ア	成果指標イ	数値増＝成果向上	☒ 向上	☐ 横ばい	☐ 低下	成果動向	比較	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	【コメント】 (低下の場合、その理由)		成果指標イ	成果指標イのタイプ	数値増＝成果向上	☒ 向上	☐ 横ばい	☐ 低下		25年度	26年度	27年度	28年度	29計画	
	③ 今年度取組事項 (29年度に取り組む主な事項について記載)		時期	内容			今後の方向性	☒ 拡大 ☐ 縮小	☐ 現状維持 ☐ 廃止・休止	☐ 見直し ☐ その他 ()					
	団地化耕作を行う生産者の増大			大規模水稲耕作者における団地化の推進と転作面積の増大を図る						水田における米の過剰作付にともなう米価の下落を解消するため、飼料用米等の転作物の作付拡大を図っていかねばならない。そのためには、担い手を中心に、転作の取組者を支援していく。					